

指定校推薦

それって何？

大学が、指定した高校に推薦枠を与え、入学者を募集する推薦制度。高校では、毎年7月頃、各大学の推薦枠や推薦基準を公開し、志願者を募る。9月頃、校内会議で推薦者を選抜し、学校長推薦で出願。11月頃、大学から書類審査や面接、小論文などの試験が課され、12月には合格が決定する。一般入試との併願は不可。枠数は学部ごとに数名で、評定平均値(1年次1学期から3年次1学期までの「体育」なども含めた全科目平均)「5段階評価で3.5以上」、「4.0以上」などの推薦基準を設ける大学が多い。選択科目や出席日数、学業以外での活躍などが条件になる場合もある。

目配りポイント

- 高1：自分の高校の指定校推薦実績を知っているか
- 高1：志望学部の指定校推薦があるか(行わない学部もある)
- 高1：1学期から勝負が始まっていることを認識しているか

ひやりハッ! 度



後になって志望大学の指定校推薦を知っても、そこから評定平均値を上げるのはほぼムリ。目指すなら入学時。この時期はまだ保護者からの働きかけも必要。



保護者も今から知っておきたい

大学進学 の キホン知識

今後、進路選択を通して自立していくわが子を見守るうえで、保護者としても最低限知っておきたいポイントをまとめました。中には、受験勉強が始まる高3になってから知ったのでは遅いことがらも。今すぐチェックしておきましょう。

※ 実施内容、時期については学校により異なる場合があります。
※ 入試制度などは毎年変更があります。前年の情報を過信せず、必ず最新情報を確認しましょう。

文/荻原美佳 イラスト/朝倉千夏

オープンキャンパス

それって何？

各大学が、その魅力を高校生や保護者向けにアピールするために開催している学校公開イベント。各学部の勉強内容を具体的に説明してくれるコーナーや、高校生向けにアレンジされた模擬授業、在学生による校内見学ツアー、入試相談や勉強方法のアドバイスコーナーなど、さまざまな企画が用意されている。学生の様子などから大学の雰囲気がわかるので、高1のうちから参加し、自分に合う大学を判断する力を身につけたい。開催は、夏休み、春休みなどの長期休暇中が多いが、各期間、1~2日しか開催していないかたり予約が必要な場合もあるので、早めにチェックしておいたほうがいい。

目配りポイント

- 高2：夏休みまでに、何校か訪問する予定、予約をとっているか
- 高2：自分から在学生に質問してみるなど主体的に参加しているか
- 高2：参加した感想、興味を進路研究に役立てているか

ひやりハッ! 度



夏休みの宿題だからと、受身で参加している場合も。前日にホームページを見る、帰宅後感想を聞く、親子で参加し語り合うなど興味を深める手伝いしても良い。



文理選択

それって何？

高校1年生または高校2年生の秋頃に行われる、翌年度に向けた文理コース選択(進学校では高校入学直後の場合も)。履修科目選択という学校もある。具体的には理科(化学・物理・生物)、地歴(日本史・世界史・地理)、公民(現代社会・倫理・政治経済)、数学各教科などの履修や履修時間に違いが出てくる。学校によっては2年、3年と継続履修することで卒業条件が満たされるなど、後になって希望進路が変わっても変更できないこともある。まだ高1だと油断せず、将来の夢や好きな学問をじっくり考えて、自分の道を選択させたい。

目配りポイント

- 高1：夏休み頃までに将来の進路イメージがついているか
- 高1：憧れの大学や学部の、受験科目のチェックはすんでいるか
- 高1：決断に悩んでないか、ラクさや友達の影響で判断していないか

ひやりハッ! 度



やっと憧れの大学が見つかったのに、受験科目を履修していなかった、志望校の入試科目が変更になったということも。視野を広げて選択しておく必要あり。



国公立大学一般入試

それって何？

1月中旬のセンター試験と、2月下旬から3月中旬の各大学2次試験(筆記方式)の、合計点で合否が決まる。センター試験の結果が一定点数以下は不合格にする「2段階選抜」を行っている大学があったり、センター試験と2次試験の配点比率が各大学で異なったりするため、センター受験後の自己採点の結果によっては、より受けやすい大学に、2次試験の出願を変更する場合もある。2次試験は、前期日程(2月下旬)と後期日程(3月中旬)、各1回ずつ受験できるので、国立大学は2回または2校受験できることになる(学校によって、後期日程なし、中期日程あり、3次試験ありの場合も)。

目配りポイント

高1～高3：苦手科目ができていないか、克服をあきらめていないか
高3：受験候補になりそうな大学すべてのセンター試験選択科目を確認してあるか

ひやりハッ! 度



第一志望が国立大学でも滑り止めの私大入学金+前期の学費は必要。また、2次試験に向けた直前対策が間に合わなくなるので、私大併願校受けすぎに注意。



AO入試

それって何？

学力ではなく、志望理由や入学後の勉強意欲などを評価し、合否を決定する入試制度。1990年代から導入され始め、今では国立大学も含め8割近くの大学が実施している。試験の名称も内容も大学によりさまざま。大きく分けて、入学志願書や論文を重視するタイプと、面接での人物評価を重視するタイプがある。試験は、早くは8月から、多くの場合10～12月に行われる。学校ごとの「アドミッションポリシー」(大学の入学者受け入れ方針)をよく理解し、自分が将来何をやりたいのか、それはなぜか、大学での目標を深く考え、論理的にプレゼンテーションする必要があるため、高3の4月頃から準備を始める生徒が多い。一部、学力試験を課す大学もある。

目配りポイント

高2：やりたいことがはっきりしているか、AO入試を知っているか
高3：進路指導の先生などに相談を始めているか

ひやりハッ! 度



一見ラクに見え飛びつく子も多いが、一般入試とは違う意味で高度な準備が必要で、時間が割かれる。落ちた場合、一般入試の勉強が間に合わなくなることも。



私立大学一般入試

それって何？

私立大学の一般入試は1月下旬から3月上旬にかけて実施される。科目は、文系は国語、英語、選択科目(地歴・公民・数学)、理系は英語、数学、理科の3教科型が一般的。同じ大学・学部でも、さまざまな入試方式を併願できるのが最近の特徴。A日程・B日程と2パターンの受験時期を設けていたり、センター試験の成績で合否判定する「センター利用入試」、「全学部統一入試」など1回の試験で複数学部を受験できる大学もある。そのほか、A日程の中にも複数の試験日がある「試験日自由选择入試」、地方都市で試験を行う「地方試験」、特定科目の配点が高かったり、高得点科目だけで合否判定してもらえる「得意科目重視型入試」など、さまざまな方式がある。

目配りポイント

高2：偏差値以外に、校風や宗教、所在地、卒業後進路も見ているか
高3：選択科目をどれにするかいつまでも迷っていないか

ひやりハッ! 度



何校にも入学金を払う試験日程を組んでしまった、親子で相手任せになり入学手続きを取り忘れたなどの失敗もある。かさま出願料、交通費、宿泊費にも注意。



センター入試

それって何？

正式名称は「大学入試センター試験」。例年1月13日以降の土日に2日間にわたって行われる、高校での基礎的な学習レベルを問うマークシート方式の試験。国公立大学の1次試験のほか、私立大学の多くが「センター利用入試」方式を採用している。国立大学の推薦入試でも課される場合が多い。受験教科や科目数は、私立大学はおおむね2～3教科、国立大学は5教科7科目以上と非常に多い。受験生は、志望大学・学部がそれぞれ指定する選択可能科目に応じて、6教科28科目の中から受験科目を選択する。英語はICプレイヤーを使ったりリスニングもある。願書提出が10月上旬締め切りと早い。

目配りポイント

高2：センター入試シーズンは受験モードに切り替えるチャンス
高2：志望先の選択可能科目を意識して3年の授業選択をしているか
高3：現役生は高校がまとめて出願。校内締切日をわかっているか

ひやりハッ! 度



高3になってから国立大学と言い出しても、受験科目数的にかなりの負担に。センター試験のイメージは低学年のうちからもたせておきたい

